
落魚

上月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

落魚

【Nコード】

N1945D

【作者名】

上月

【あらすじ】

女を殺したのは、わたしだったのだ。

死んでいた。

傍らに眠る女が、今日は珍しく朝寝坊をしていたので、起こそうと肩を揺さぶったとき、はっとして手を引っ込めた。

昨日の情事を物語るような、わたしが付けたいくつもの跡がくつきりと赤紫に染まっている。しかし、わたしは即座にその色の異変に気がつく。普段なら、女が「あまりわからないものね」と半ば感心しながらほとんど肌の色に近い、ほんのり赤く色付いただけのその跡を見つめるのだが、今日はなぜか赤紫色をしていて、おまけに色も濃い。ゆっくりと女を仰向けにしてみると、まず唇が青紫なのに気がついた。続いて肌が冷たく、血が通っていないようだった。むろん色もない。

死んでいる。そう、女は死んでいるのだ。

あまりにも何の前触れもなく訪れた死に、わたしは驚くどころか、なんともまあ呆気の無い死に方をするな、と思った。それと同時に、女を殺した正体の掴めない何かに対しても、ひどい憎悪を抱いた。もし見つけたら、殺してやろう。とも思った。

わたしは女の顔の横に手をつき、女の長い睫毛が重なるほど顔を近づけると、上品な小さい唇に、そっと別れの接吻を落とした。

そうしてゆっくりと起き上がると、乱れた着物を直し、帯をゆるめると締める。襖を開けて縁側に出ると、ざあざあと雨が降っていた。庭と縁側に戸や壁の仕切りはないため、木でできた床がぐっしよりと濡れている。湿った匂いが鼻孔をくすぐった。

腕を組んで足元を濡らしながら、はなれにある物置へ足を運んだ。物置には生憎小さなスコップしかなく、わたしは渋々そのスコップを手にとると、また女のいる部屋へと戻った。

女は相変わらず仰向けになったまま、瞼を閉じて依然と動こうと

はしなかった。死んでいるのだから当然か、と思ったが、女が今にも動き出しそうな気がして、目が離せなかった。

わたしは名残惜しい気持ちを必死で覆い隠しながら、そっと真っ白な布に女を包んでやった。

そうしてわたしは雨の中、庭に出て必死で小さなスコップで穴を掘った。真珠の雨粒が、地面に落ちては吸収されていくのを見つめながら、わたしはなおも穴を掘り続けた。

幾時間も経ってようやく、女ひとりが入れるような穴を掘ることができた。わたしは布にくるまれた女をそっと抱き上げて、穴へ入れてやると、やさしく上から土をかぶせてやった。そして今度は唇ではなく、女の上にある土にそっと接吻した。

わたしは椅子に腰掛け、煙草を口に銜えながら、ぼんやりと女と出会った日のことを思い出していた。

女は大事そうに、両腕で金魚の入った金魚鉢を抱え、わたしの家にやってきた。そのときに、「どうか、この金魚は、この金魚だけは世話をして、生かさせてやってください。わたしが世話をしなくなったときは、あなたが世話をしてやってください」と頼まれたことも覚えている。女は金魚の世話をまめにしていた。そういえば、今、金魚はどうなっているのだろうか。女が死に至るほどではないが、病弱になってからというもの、金魚の世話をしている姿を見たことがないことを思い出した。

わたしは立ち上がり、金魚鉢の置かれている玄関へ向かった。

玄関はひっそり閑としていて、雨がしきりにがたがたと戸を揺らしている。その隅っこに、金魚鉢は置かれていた。

わたしは下駄を履いて金魚鉢へと近づくと、そっと中を覗き込んだ。

死んでいた。

大きなぎょろりとした、不気味な白く濁った目を見開いて、優美な尾を垂れ下げ、ぷかり、と水面に浮かび上がって、死んでいた。

ひどく痩せている。女の言葉がありありと頭の中に浮かんでくる。
そこでわたしは気がついた。
女を殺したのは、わたしだったのだ。

――了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1945d/>

落魚

2011年1月30日15時38分発行